

## 目次

- ▶平成29年度 校務改善推進事業発表会の3校の事例発表紹介
- ▶同発表会参加者のアンケート集計結果

発行日 平成30年1月23日  
発行 校務改善推進会議  
事務局 東京都教育庁人事部職員課  
新宿区西新宿2-8-1  
都庁第一庁舎北側36階

# 校務改善NEWS 第22号

## ▶校務改善推進事業発表会の事例発表紹介

東京都では、都内公立小中学校の校務改善の推進を図るため、毎年11月を校務改善月間と位置付け、校務改善推進事業発表会を行っています。発表会では、優れた校務改善事例を発信し、より多くの学校現場に校務改善の運動を拡大し、教育を活性化することを目的としております。

今年度は、平成28年度校務改善表彰を受賞した府中市立府中第三小学校と世田谷区立船橋小学校、同じく平成27年度に受賞した稲城市立稲城第三中学校に実践報告をしていただきました。

### 事例発表1

#### 府中市立府中第三小学校

平成29年度 校務改善推進事業発表会

##### 「教師も子供も生き生きと輝く学校」

府中市立府中第三小学校

発表者 校長 宇野宮 聡  
教務主任 渡倉 望之  
ICT主任 山内 佑輔

##### 「教師も子供も生き生きと輝く学校」

学校組織マネジメントの考え方に沿って、目指す学校像の共通理解を図るとともに、中期目標と今年度の取組目標を明らかにすることで、教職員の力を一方向にまとめました。また、個人の取組を自己申告で管理することでPDCAサイクルが回るようにしています。学校運営組織の改善を行い、通常校務対応部会(A部会)と教育課題対応部会(B部会)を設定し、ミドル・アップダウン・マネジメントを機能させることで校務改善とともにOJTを推進しました。

##### 【校務改善に取り組んだきっかけ】

- 教育課題の複雑化・多様化による教師の多忙感の軽減
- 組織目標の明確化 ○スクラップ&ビルドへの意識転換
- 費用対効果の意識を持つ必要性

### 事例発表2

#### 世田谷区立船橋小学校



##### 「児童と向き合う時間の確保と校務改善」

教員が子供と向き合う時間を確保し、多忙感の解消を校務改善によって実現するために、「チーム学校」として教員一人一人が力を発揮できる環境づくりを進めてきました。その根本には、「アクティブワーキング」と呼べるような教職員の活発なコミュニケーションによる組織的対応があります。学校運営組織を再編し、会議の精選・効率化を図る中で、話し合いで物事を決める「PA-PDCIサイクル」を回してきました。ミドルアップ・ボトムアップを大切にすることで、教職員が主体的に学校運営に参画し、校務改善を推進しました。

##### 【スタンダード、ルーティン化、マニュアル化】

- ①授業規律や生活指導のルーティン化による児童と向き合う時間の確保
- ②学校事務のマニュアル化(若手が担当し、主任が確認、毎年改定)
- ③学年便りの形式の統一

### 事例発表3

#### 稲城市立稲城第三中学校

##### 学校経営推進部の設置について



平成29年度 校務改善推進事業発表会  
平成29年11月29日

稲城市立稲城第三中学校 校長 橋 太造・主幹教諭 稲葉 大祐

##### 「学校経営推進部の設置について」

校務増加への対応、地域連携の強化、学校経営基盤の強化を行うために、「学校経営推進部」を設置しました。「学校経営推進部」で担当する校務は、①既存の分掌から移管したものの、②担当部署がないため副校長が対応していたものです。これにより、校務の役割分担の明確化、新しい教育内容への着実な取組、学校経営に対する参画意識の向上といった成果を上げました。

##### 【学校経営推進部運営上のポイント】

- ①校長のリーダーシップ  
・経営方針や重点目標を明確にする  
・学校経営推進の運営方法をはっきり示す  
・取組の当初は「たたき台」を示す
- ②教職員間のコミュニケーションとモチベーション  
・トップダウンによる「やらされ感」の解消  
・教員間のコミュニケーションを促し、モチベーションを上げていく

校務改善ホームページ



上記の事例発表の詳細について、「平成29年度 校務改善推進事業発表会」にて掲載中です。是非、御覧ください。

# ▶発表会参加者アンケート集計結果(抜粋)

## ＜アンケートの自由記述より＞

### 「全体を通して」

- ・先進的な取組を知ることができて良かった。【校長】
- ・自校における取組推進のヒントを得ることができた。【校長】
- ・発表内容は、多くが取り組んでいることでした。本校の取組は、間違っていないかと自信になりました。【校長】
- ・役割分担を明確にすることが校務改善につながると発表から感じた。【副校長】
- ・新しいことを立ち上げるということよりも学校の実態に応じて、どれだけ効率よくチームワーク良く仕事をしていくかが必要であると感じました。【副校長】
- ・若手教員が半数近くを占める中、スタンダードを作ることが、一番の負担軽減になると感じました。【学校事務】
- ・学校には非効率と思うことがたくさんあります。小さなことの改善の積み重ねが大切だと感じました。【学校事務】
- ・教員の働き方改革と言われる中、学校の校務改善が進み、児童生徒のための時間が増えるよう、行政職として課題・問題解決の参考としたい。【教育委員会】

### 「府中第三小学校の発表に関連して」

- ・校務改善支援員や事務室の機能強化、校務支援システム等については区市町村での差が大きいと思う。とても良いことなので、全都的に推進してもらいたいと思う。【副校長】
- ・分掌ファイルとPC上のファイルが同じ番号というのはとても良いと考えます。【副校長】
- ・学校経営中期目標に基づく具体的方策に対して各教員がどう取り組むかを考え、行動することで学校全体が同じベクトルに向かうことができると思った。その上でこそミドル・アップダウン・マネジメントが行えるのだろう。また、特別支援部がすぐに動けること、ICT部により事務仕事が減少するということがすばらしいと思う。【主任教諭】
- ・私費会計について、本校では学年が担当している。事務職の私の個人の意見としては、府中三小のように事務職が行う方が良いと思っはいる(教員は教員でなければできない仕事に時間を使ってほしいため)が、本校の事務職の人数では対応が困難だと思う。【学校事務】

### 「船橋小学校の発表の発表に関連して」

- ・事例が具体的で分かりやすく、本校の校務改善に生かしていこうと思いました。【校長】
- ・教員が子供たちへ同じように接していくルーティン化、スタンダードの重要性を感じた。しかも、トップダウンではなく、話し合った結果によるミドルアップダウンが学校を活性化するための要因となると感じた。【副校長】
- ・「話し合って決める」、「決めたことは守る」という言葉が印象に残りました。【副校長】
- ・「誰が動かかではなく、とにかく動いて実行することで他の歯車も回る」は正にそのとおりだと思います。【主任教諭】
- ・失敗したことも詳しく挙げて発表していただいたので、すごく良かったです。【教諭】
- ・コミュニケーションが大事というのが心に残った。【学校事務】
- ・何から手を付けるかだけでなく、どこかが動けば連動して全体が動くというように、校務改善のために動かさなければならないことを再認識した。【教育委員会】

### 「稻城第三中学校の発表に関連して」

- ・経営支援ではなく、経営推進という考え方に共感しました。【校長】
- ・教員の主体性、参画意識が多忙感の解消になることが理解できた。【校長】
- ・本校の連絡会は口頭が主でしたが、学校経営推進部の予定・記録用紙が大変参考になりました。【副校長】
- ・「目新しい取組はない。これまでの実践の中に改善のヒントがある。」という言葉が強く残りました。【主幹教諭】
- ・経営主任の仕事任せから現在に至るまで、何をすべきか曖昧なままでした。しかし、稲城三中の発表を受けて、今後自分がどのように職務を行っていくかの方向性が見えたような気がしております。【主任教諭】
- ・事務連絡会の設置など、運営がうまくいっている学校は話し合いの場、コミュニケーションを大事にしていると思った。【学校事務】

### 「経営支援部について」

- ・現在の「校務改善」は、副校長への業務集中を解消する方向性があると思われるが、そのために経営支援部を設置することが必ずしも教員全体、学校全体の校務「軽減」や「働き方改革」までには至らないのではないかと感じた。多忙「感」の解消が現実路線なのかとも思う。【副校長】
- ・経営方針を実現するための経営支援部であると改めて感じました。【副校長】
- ・事務職員として、どのような形で学校経営に関わるべきか迷うことも多いので経営支援部を設置し、組織化することで仕事をしやすくなるのではないかと思います。【学校事務】
- ・市内小中学校の経営支援部の設置をこれまで以上に推進していきたい。【教育委員会】

### 「事務職員の関与について」

- ・学校事務職員が担う事務処理能力の向上や学校経営への参画は必要不可欠であると再認識しました。【学校事務】
- ・事務職員が組織内に入り込めていないと感じました。もっと事務職員を活用してほしいですし、事務職員も自ら飛び込んでいかねばならないと思います。【学校事務】
- ・事務職員と一緒に取り組むことは、まだまだハードルが高いとあったが、これが素直に現場の生の声だと思った。その中で、教員とその他の職員が一体となって取り組む仕組みを継続して考えていきたい。【教育委員会】

